

J.R.S Dec No. 3345

Exhibit No.

カリホルニア州  
マリコ郡

宣誓供述書

余「アメリカ合衆国海軍大佐 認識番号第五八九九番  
「トウニ、ト、ト」(TOWNE)「カリホルニア」州  
「チバロン」(Tiburon)、「アメリカ」合衆国海軍所轄網廠及所  
管訓練学校、指揮官トシテ現ニ現役勤務中ノ者トテ於  
先ニ法律ニ從イ適法ニ宣誓セシメ、如ノ供述スル

余ハ一九二〇年六月十日以來引續キ「アメリカ」合衆国  
海軍ニ勤務シ居ル 余ハ一九二四年六月四日「アメリカ」合衆国  
海軍其学校ヲ卒業シ一九二四年六月五日「アメリカ」合衆国海  
軍少尉ニ任官シ右日前以後、海軍將校、通常、職務  
任官シ居タ

一九二九年九月二日合シ余ハ日本語研究ニトシ日本  
東京「アメリカ」合衆国大使館ニ所屬セシメ一九三三年  
十月八日より一九三三年二月二日ニ至ル間 余ハ中国北京「アメリカ」合  
衆国公使館付補助海軍武官トシタ 一九三三年四月十日  
より一九三三年五月十七日まで及一九三六年六月三十日まで一九  
三七年二月十六日まで、間 余ハ「コロンビア」地区「アメリカ」海軍  
省情報部 情報官トシタ 一九三七年四月五日から一九  
三九年三月十七日まで、間 余ハ東京「アメリカ」合衆国大  
使館付補助海軍武官トシタ

一九三九年四月二日より一九四〇年十月八日まで、間 余ハ  
佐陸級ヲ有シ「ボグガス」(BOGGS)ニ、指揮官トシタ

2.188 Doc No. 3345

一九四二年十二月七日。余、アメリカ合衆国太平洋艦隊司令長官、参謀部、艦隊情報官として、勤務に所属せしむ。戦争、初期を通じて及余が在参謀部、戦闘情報官として、一九四二年三月十三日。至ルまで在職。勤務として、所属する余、アメリカ合衆国海軍中佐に昇進。次に現在、階級は海軍大佐に昇進。余、一九二六年二月二十五日に戦闘情報官として引継ぎ勤務に就き、後余、現職に任命せしむ。而して余、アメリカ合衆国太平洋艦隊司令長官、参謀部にて最要要情報を掌る地位に於て五年四月以上、期間を終了。した。

艦隊情報官として、余、任期、一九四二年七月十四日附。一九四二年十二月七日。夏、珍珠港に對して日本軍攻撃、日。於て尚効力を有してキタアメリカ合衆国太平洋艦隊司令長官、参謀部。發せしむ参謀命令に於て不サシタ余、任務、次、如キモノデア。した。

A. 敵情報、蒐集を命じ且其を評價スルコト。

処置が要せしむ場合。是を指示し。諸種、参謀部員に傳達スルコト。

B. 作戦將校及作戦計画。將校に對し現在、評價。必須ナル情報ヲ提供スルコト。専門報告資料ヲ準備スルコト。

C. 敵軍、状況、評價、第二款 A、B、C、D、E、F、及 G 各目ヲ整備スルコト。可能ナル敵國又ハ連合國、艦

1. pa



Q.R.S Doc No. 3345

P3

隊、所在國面ヲ整備スルコト

D. 対間諜及対情報ヲ命令スルコト

E. 情報記録ヲ整備スルコト (海軍情報發本参照)

F. 艦隊情報報告書ヲ作成スルコト

G. 他國海軍、処置又ハ方法ニ関シテ受テタル諜報ヲ評價シ、我が國艦隊ニヨリ執ルベキ処置ニ付テ明確ニ意見具申書ヲ作成スルコト

H. 檢閲ヲ監督

I. 艦船、内部の保護

J. 寫真偵察活動ヲ監督スルコト

亦、命令ハ補助情報官、情報任務ニ於テ余ヲ一般的ニ輔佐スル外次、如キ任務ヲ行ハベキコトヲ規定シタ

A. 商船計畫圖及分析調査書ヲ整備スルコト

(以下次頁)

9.18.5 Doc No. 3345

B. 艦隊ニ配属ナリ我艦隊全航空機、輸送部ニ作成

スルコト

C. 敵艦隊ノ蒐集、評價及傳達

D. 敵軍、状況ニ就テ現在、評價及可能ナル敵國

艦、連合艦隊、所仕國ノ整備

情報カ海軍作戰長官、下ニシテ海軍情報部本部  
トシテ海軍及戰鬥情報隊カ及稱ノ關係  
島上、極秘甚、他諸種、出所カ、更ニ商艦我  
艦偵察機カス、並ニ我艦(Cavite)及海軍情報部  
本部、如キ他、通信情報部カ、余、許、則、希、余、  
新、手、許、ニ、凡、テ、情報、蒐集、ノ、折、ニ、評價、較  
量、長、短、回、面、其、他、要求、セ、テ、記録、作成、配  
布、ス、

以下次頁





9. P. S. Doc No. 3345

八月廿一日附第二六四六頁ヨリ第二六四八頁迄、西貢  
ヲ包含シ、記録セラルルニ至田英三、証言ニ書キテ。

速記録、第二六四六頁及第二六四六頁ニ於テ、至田  
大佐ハ「根據地」ト「基地」ト、又別ニ認メ、其ハ、航空(air-  
bases)、存在スルニエテ、各認メ、(第二六四六頁及第二六  
四七三頁)全、衆知所、戦争、全期間ヲ通ジ強クス、  
日本軍、(base)ノ實ニ主要トシテ、ヲ除キ「基地」ト呼ビ  
タリ。

更ニ東京水交社(日本海軍將校俱樂部)ニヨリ出版ス  
ル「海軍少佐尾崎主税編和英海語辭典、第三三三頁  
ニ「日本語「基地」ハ「(base)ト訳スルニ「(submarine-  
base)」「(naval base)」「(repairing base)」「(base commander)」「  
(base of operations)」等、多種類、(「base)ト用、其  
地」トハ語、詳細トハ使用例ト一覽、トナリ。國辭典、  
第二六八頁ニ「根據地」トハ「(base)ト訳スルニ  
「其、下」ト「(submarine base)」「(naval base)」「(repairing-  
base)」「(fleet base)」「(base hospital)」等、又、語、使用例  
トナリ示サレタリ。

日本語「根據地」及「基地」ハ、其ニ英語「(base)」、意味、  
使用サレタリ。

前記半官校圖ニヨリ出版セラルル、國著者編英和語  
辭典ヲ参照スルニ、六十八頁ニ英語「(base)」「日本語「基地」  
「根據地」ニヨリト書キ表ハレ、(「其、下」ト「其、下」例  
四ノ五、ハ、一、例ニ「(advance bases)」「(aviation bases)」「  
(naval bases)」「(operation bases)」等、ニ「根據地」



6d

6d

9. P.S Doc No. 3345

「工三不」( Enyoor )、蘇三部隊ト報告せり。又「  
工三」( Imieji )、同處ト報告せり。吉田海軍大佐、我々  
「Fortification」ナル語、日本海軍ニ於テハ概念ヲ與セ  
テ來り。 ( 二六四頁、一二行目 )。文書第三号、自來  
文書第三号又ハ高麗 ( 高麗書証第一二五三 A 号又  
ハ第一二五三 B 号 ) ハ海軍統治諸島ニ於テハ海軍、  
所謂「基地」ガ実。

- (1) 陸海空ヨリ、敵、攻撃ヲ許シ抵抗、防禦、得ルニ  
シ、設備及國土防衛施設ヲ有シ。
- (2) 海軍陸上部隊ニ依リ、防衛セラル。

吉田海軍大佐、自身ニヨリ、與ヘラレタコト、日本軍、定  
義ヲ適用スル、ハ、等々「基地」ハ明確ニ定義セラル  
ベシ。自來、何處ニ艦を基地ト示サラトモ、ハ、日本  
海軍、艦を基地ト示スルカ、吉田海軍大佐、ハ、ハ「実、現  
現、海軍、校射、如キ、純然タル商業上、目的、ハ、同  
タ、艦を基地ト示シ、注意澤リ、陳述スル、( 二六四頁 )

吉田海軍大佐、海軍統治領ノ設備、純粋、文化  
トアルト記述シ、且、亦、A 表ト其ノヲ確ニ一致スル  
コト、飛行場、存在ヲ主張スル、ハ、事、何ニシテ  
アル、彼ハ、二六四頁ニ於テ、ハ、陳述ス、機、側ガ主  
張、且、高麗書証第一二五三号、ヲ、證據トシ、提、出、セ、ル  
カ、飛行場、ハ、「字、二、三、三」( 三三三 ) ニ於テ、ハ、一九四〇年、  
同、タ、リ、コトヲ、確、認、ス、ル、ハ、高麗書証、ハ、飛行場、ヲ、示、ス、



J.P.S Doc No. 3345

又、計画中、軍事設備及び「ハルシー」(Halsey)機動部隊(文書第一号)が主として見られる。更に、文書第一号、五三A及び第一二五三B号に於て、前述、法廷書記の第一二五三C号に於て、軍事設備、実際、位置を確たるものにして、  
文書に、日本軍が真珠湾を攻撃、しつたが、五三B号に撮らるる元号に、  
五三、五三三日より、日本軍は、一九四一年十二月七日以後、  
「ハルシー」機動部隊攻撃(文書第一号)、日九一九四二年一月三十一日、  
「イワサキ」(Iwaki)に、法廷書記の軍。計画、  
国、  
に現実、

文書第一号、及び「ワット」(Wotje)、「ロイ」(Roi)、「ロット」(Rotto)及び「タロ」(Taro)が、  
軍事設備、  
三島、  
他、  
確證

J.P.S Doc No. 3325

p10

文書第一号、第三十三、三十六頁に「ヤル」(Jalvit)分遣隊「  
ウオ」(Wot)分遣隊「タロア」(Taroa)分遣隊「ボナペ」(Bonape)  
分遣隊が存在するとして記述する。此等六軍大防備部  
隊三分遣隊より編入するに於て、此防備部隊は  
正規編制、日本海軍陸上防備部隊であり、其編  
制表に規定する部隊兵器弾薬を備へて居り、(c)の海岸  
防備砲台、高射砲台に兵器配置し、任う事とする。第六  
防備部隊、任務が四軍に防衛的、その下にカソウ軍団  
隊一部が戦争勃発後、ウエー島(Wake)、襲撃し、占  
領し参加する事案が示される(襲撃ラテ、海軍特別陸  
戦隊、第二中隊に第六防備部隊から成つて居り、高  
野に指揮を執る)。三軍島嶼、大部分は第四補  
給分遣隊、支部に第四軍需(軍需品)部、支部が  
あり、事、注意すべき事である。前者、海軍技術補給  
と称する。後者、弾薬兵器爆弾、魚形水雷等  
貯蔵品、取扱はに於て米國、兵器補給と称  
該當スル。更に此等諸島は、第四海軍建築部、分  
遣隊横須賀海軍工廠より、技師、及是海軍工  
廠カラ、技師が来る。是等技師連、通常軍  
屬、技師であり、海軍將校、指揮下は屬し、或  
種、前進基地工事を利用する海軍、資金より俸  
給を受ける。私人 (次頁)



彼等職務ハ軍事的モデアツテ、民間モデハテカツテ事ヲ強調スル。  
 文書オニA表(七三八頁)ハ委任統治諸島ニ於テ日本ノ施設ニ関スル  
 更新ラシイ(一九四一年十月二七日)情報ヲ表ノ形ニシテモデ上記  
 ニ関スル情報ノ要約デアル。兵器専門家が種々委任統治諸島  
 ニ駐在シ割當テラレテテ事ハ特記スベキコトデアラウ。彼等ノ任  
 務ハ兵器、装着、高射砲、海岸防備砲及ビ爆弾、彈藥、  
 魚形水雷、雷道場並ニトーチカ、掘附等ノ監督デアワタ。  
 記録オニ及ビオニハ大量ノ海軍兵員、海軍資材、造船  
 技師並ニ兵器技師ヲ「マーシャル」群島ニ運搬セントスル日本側  
 ノ最初ノ動マハ事實一九四〇年十二月中旬ニ見受ケラレタ事  
 ラホシテイル。吉田ハ一九四二年一月決定ガナサレル迄ハ(三六、  
 四七頁)彼等ハ存在シテカツタト云ツテ居ル。(三六、四七頁)  
 一九四一年ニ於ケル斯カル動キヲ指摘シタ我々ノ情報ガ正シクテ  
 吉田ガ一年間記憶ヲ失フテナル事ハ一點ノ疑モ無イ事デアル。  
 當時余ノ入手シタ情報カラ見テ、余ハ工事ノ組立、必需資  
 材ノ調達、船舶ノ割當等ノ行ハレタハ(三六、四七頁)彼ノ  
 言ヲ称シ一九四一年十一月五日ニデハ無ク恐ラク、一九四一年十二月  
 我ガ斯カル動キノ徴候ヲ看取シタ如ク、一九四一年十一月五日  
 ニ行ハレタ事ハ間違ヒテイト思フ。

P12

二六、四七頁に「吉田大佐の大砲ヲ陸揚せしむ事ト是等  
の若干ヲ『風化試験』ニ爲シ數ヶ所ノ奪位係に諸島  
事實ヲ設置せしむことヲ承認スル事ニ。吉田大佐は是等、  
事情ヲ知らずナルことヲ自認シタルナリ。この等ヲ永久陣地  
設置スルコト（ワタシハ、極ニ設置サレタ）ハ長年月ノ工事。  
格傷等ヲ蒙ミタマフこと。註一九四三年一月三十一日  
「ワタシ」(Wage) 島津・US「ワタシ」  
(NORTH HAMPTON) 「ワタシ」(ST LAKE CITY)  
ニ対シ是等、砲台ノ放りテは艦射撃等カ約五斗米カラ  
六斗米ノ射程ヲ示シタマフことヲ知ラズホトナリ。(二六、四八  
頁) 是処ハ是等カ「回式砲」デアツタト確ニ信スル不ハ出来。  
艦隊ニ對スル燃料油、油槽船カラ取ルことナリ。吉田氏、  
陳述ハ之ヲモ知サイ。(三七、四八頁) 然レ同氏  
ハ亦相違ナキ、軍用海軍目録用、貯油槽、工事ヲ  
彼等ノ開始シタマフことヲ承認スル事ニ「ワタシ」島(Wage)  
ノ貯油庫ハ商業用、モノナリ。日本、商業用  
期船モ、ハ他何ナリ予、商業用定期船モ「ワタシ」島(Wage)  
ニ定期寄港ハナリタマフ此ノ貯油庫ハ海軍用ニ海軍が建  
設シタルナリ。之故ニ此ノ施設ハ商業用ナリ得テ軍用モ、  
アリタリ。此等諸島ニ軍用モ、兵器、治具等(文書第一卷三)  
カアリタリ。之故ニ彈藥、糧食、航空機燃料等ハ金一船カラ  
運ビ来タマフナリ。諸島ヲ余ニ信スル不ハ出来。(二六、  
四七、四八頁) 又「補給品集積所」ニ關シは、陳述ヲ余ニ信  
スル不ハ出来。日本側ニ兵器倉庫等不足ナリ。



[illegible]

H. E. D. T. - D. T. 1/10/22  
(Edwin T. Layton)

此九二五州五方之二於一九四一年十一月十一日  
國府三三三號之國府令。

中國造紙工業

 $\alpha - \alpha - H_2O$  (Hodge)